

「アルクベ・イウベ・キクベ～デフバージョン～」体験会

日 時：令和7年10月26日（日） 10時00分～14時30分

会 場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂 及び 秋田県生涯学習センター周辺

参加者：あきたWith*関係者、ツドウベース利用者、生涯学習センター職員（計14名）

聴覚障害者の立場で街を歩く体験を通して、当事者の日常生活や街の利便性、必要な支援について考え、共生社会への意識を高め合うこと目的として「アルクベ・イウベ・キクベ～デフバージョン～」体験会を行いました。

参加者は、ヘッドフォンを装着し、そこから聞こえるノイズによって周囲の音が聞こえない状態で、「買い物をしよう」「ランチをたべてみよう」など様々なミッションに挑戦しました。ミッション終了後は、お互いの体験を発表し、感じたことを共有しました。

【街歩きの様子】

生涯学習センター副主幹（兼）学習事業チームリーダー 柏木 睦 が進行し、趣旨と街歩きの流れについて説明しました。その後、グループごとに様々なミッションをクリアするための作戦を考え、街へ出発しました。参加者は、周囲の音が聞こえない状態で街を歩くことで、「車が急に横を通り過ぎた」「常に後方が気になる」などの怖さや、周囲の人が何を話しているのか分からないために抱く「不安感」などを感じる事ができた様子でした。



コミュニケーションボードを用いた参加者同士での伝え合い



ヘッドフォンを着用しての食事



狭い道路での自動車とのすれ違い

【交流会の様子】

体験で感じたことを付せんに記入し、参加者同士で話し合いました。聴覚障害者が抱える困難さに気付いた他、「飲食店での注文時には、タッチパネルや店員への直接の注文方法などがあった。様々な手段があることは、人に合わせる事につながる。」という意見が出されるなど、様々な困難さを抱える方の視点にも気付くことができました。

最後は話し合いを一言にまとめ、発表しました。「（危険が多いので）周りを見ながら行動」「（街の人からの）温かみのある気づかい」「誰とでも気持ちよく関われる社会」と各グループでまとめ、全体で共有しました。今回の体験を通して、参加者の皆さんは相手の立場で考える大切さを再認識することができた様子でした。



グループごとの発表

【参加者の声】

- ・街歩きでは自動車の他、自転車も急に現れて怖かった。様々な困難さを抱えた人がいるので、自分も車の運転には気を付けたい。（あきた With 関係者）
- ・自分は杖を使って歩いているが、杖を使っている時には、聴覚障害者の方と筆談や手話などでコミュニケーションがとれないことに気付いた。（ツドウベース利用者）

※あきた With は、秋田県生涯学習センターの学習活動の趣旨に賛同した県内企業で設立した非営利任意団体です。